

# 県中域内家庭教育支援者研修会

日時：令和5年12月2日（土） 13:20～16:20

場所：郡山市労働福祉会館 中ホール 参加者：42名

本研修は、親自身が学ぶ機会の充実を図るとともに、家庭教育支援者を養成・育成する研修として、すでに家庭教育支援者として地域や各団体等で御活躍されている方、そして、家庭教育や子育てに関心がある方に、より実践的な知識、技能を身に付けていただくことを目的としています。支援を受けたくても受けられない親を支援するアウトリーチ型支援につながるためには、支援者同士がつながり、地域を巻き込み、地域とつながりながら家庭を支援していくことが必要になっています。

## ★活動紹介「子育ての不安解消、子育てを楽しむ家庭教育ふれあい事業」

郡山市のびのび子育てサポーター 遠藤 敦子 氏 柳橋 久美 氏

- 「のびのび広場」は1993年郡山市内の地域公民館3カ所で活動を開始しました。はじめは親子同士のネットワーク作り、コミュニティ作りを目標に始めました。9人のメンバーで施設の安全対策、危機管理、職員の方との役割などについてあらゆることを相談しました。その後、3カ所から5カ所に拡大し、さらに中央公民館を拠点とした活動へと移行しました。
- 「のびのび子育て広場」では、乳幼児から就学前の子どもを持つ方を対象に、親子参加型の体験型講座を実施しています。講座の内容を参加者自身が企画して運営している。安心して活動できるように、サポーターが適宜アドバイスをしています。参加者が主体であることを大切に、見守り導くよう意識しています。また、サポーターによる月一回の会議では、情報を共有して、よりよい活動や支援方法へつなげています。
- 講師を招いたりサポーターが企画したりした講座も実施しています。（親子ふれあい遊び、ベビーヨガ、親子体操、絵本読み聞かせ、新聞紙遊び、ハロウィンパーティー、食育講座など。）
- サポーターの想いとして、参加者が講座を通して仲間作りや新しい出会いができるように人と人をつなぐ活動になればと考えています。そうすることで、子育てに悩んでいるのは自分だけではないと感じたり、偏った考えに気づいたりすることができます。子育てを楽しむ経験を伝えようと、かつての参加者が現在はサポーターとして多く活動しています。





## 講話「地域がつながる家庭教育支援」

福島大学地域未来デザインセンター 客員教授 本多 環 氏

- これまでの家庭教育支援とは、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習機会や情報提供など、家庭教育を支援するための必要な施策を講じていくことです。これを批判的思考力・想像力・創造力を働かせた新たな家庭教育支援が求められています。
- 家庭教育に関する課題は、地域コミュニティの喪失・崩壊、核家族化、ひとり親家庭の増加、少子化…など。ヘリコプターペアレントの増加（過干渉）や放任などもあります。家庭教育力の低下により、「困り感」を抱える家庭が増加しています。
- 学校教育の現状として、教育内容の多様化や子どもが抱える課題の多様化・複雑化、いじめの認知件数の増加、自殺者数の増加などがあり、学校だけでは対応できなくなっています。
- 事例2の生徒への対応をあなたならどうします？  
（中学3年生男子。父親が事故死、母子家庭、姉がシングルで出産、母親はアルコール依存症、食事の準備ができない。お金の管理ができない。高校の入学金が支払えない。不登校。学力不振。昼夜逆転）  
→自分（所属）だけでは難しいです。
- 家庭教育支援チームなどがアウトリーチ型支援を行っていくことが求められています。また、これまでの家庭教育支援から一歩踏み込んだ家庭支援への転換が必要です。こども政策の基本理念には、子どもや家庭が抱える様々な複合する課題に対し、制度や組織による縦割りの壁、年度の壁、年齢の壁を克服した切れ目のない包括的な支援や、待ちの姿勢からこども・家庭に支援が確実に届くブッシュ型支援、アウトリーチ型支援への転換が盛り込まれています。



## グループ協議「家庭教育支援上の課題について」

テーマ「家庭教育支援上、手が届かないなど他の機関に頼りたいケースは？」

- テーマを踏まえながら、自分の所属の「強み」（できること）と「弱み」（できないこと）について自己を振り返りながら付箋に書き、模造紙に貼りながら説明しました。「強み」と「弱み」について考えたこともない方は、頭を悩ませていたが、それぞれ自分なりに考える良い機会となりました。
- 意図的に違う立場の人で班編制したことにより、自分とは違った専門家から、さまざまな意見や課題などについて情報交換がなされていました。



## ★まとめ「家庭教育支援上の課題解決について」

福島大学地域未来デザインセンター 客員教授 本多 環 氏

- 郡山市内での横のつながりができました。今後、研修会や講演会などお互いに連携していけるので、大変良い機会になりました。(I班)
- 立場がそれぞれ違うので話し合いが難しかったですが、多くの家庭教育上の課題が出されました。それを行政につなげることも大変ですが、行政からなかなか降りて行かないという課題もあります。(G班)
- 立場がそれぞれ違っていました、いろいろな意見を聞くことができ新たな発見がたくさんありました。情報交換ができて良かったです。(H班)
- 強み、弱みについて考えること自体難しかったかもしれないが、研修後に各所属内でチームの強み(できること)と弱み(できないこと)について話し合い、共有を図って欲しい。窓口の一本化に向けた取り組みが始まっている。各教育事務所や県教育庁などにも相談して欲しい。



## ★参加者の声

### (活動紹介について)

- 利用者同士のつながり活動を通して”知り合い”になっていく素敵な活動の紹介ありがとうございました。また参加したいです。
- 孤独な子育てにならないように楽しい会を作られている様子にとっても安心と感動いたしました。特にワンオペ子育てをされている(子育てで苦しい思いをされていると思われる)方へのお誘いが大切だなと感じました。

### (講話について)

- 家庭教育がなされるよう家庭を支援する。(自分の組織でできることできないことを認識して)いろいろな支援とつながっていくようにすすめることが大切であることを改めて認識しました。
- 本多先生のお話を伺い、子どもに関わる諸問題は、担任、学校だけで抱えなくていいと安心しました。子どもや家庭を支えるネットワークを作る一つの柱になりたいと思います。
- 子どもの背景を聞いていて、自分と同じだなあと感じる場所が多かったです。子どもが笑顔になるためには母親が笑顔でないとダメだよなど。家庭支援の大切さを改めて感じました。

### (グループ協議・まとめについて)

- さまざまな立場の人の話を聞くことができ、自分が強みとっていなかったことも強みになるんだと感じることができました。横のつながりをもっとたくさん作っていきたいと思います。
- もっと時間が欲しかったです。やっと話を聞き合う関係ができました。ネットワーク作りのためにも、たくさんの専門家と知り合いになっていきたいと思います。

福島県教育庁県中教育事務所総務社会教育課

TEL : 024-935-1488 FAX : 024-935-1494

